

## 平成16年度 社団法人日本グライダークラブの記録



### 社団法人日本グライダークラブ定款より

#### (目的)

第 3 条 本クラブは、グライダー(モーターグライダー並びにグライダー曳航用軽飛行機を含む。以下同じ)の操縦訓練・研究・制作等を通じ、航空知識の普及と航空関係技術の向上をはかり、また、広く各国グライダー界と交流し、もってわが国グライダー界の発展に資することを目的とする。

#### (事業)

第 4 条 本クラブは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) グライダーの操縦練習並びにその指導。
- (2) グライダーの普及並びに技術の向上をはかるための記録会・競技会・講習会等の開催。
- (3) グライダーの操縦技術・安全運行・事故防止対策等に関する研究会・講演会・映画会等の開催。
- (4) グライダーの設計・改造・制作・整備・修理。
- (5) グライダーに関する出版物などによる航空思想の普及。
- (6) その他、本クラブの目的達成に必要な事業。

# Club Operation in 2004



## 平成16年度 社団法人日本グライダークラブ事業報告書

平成17年1月31日  
(社)日本グライダークラブ  
理事長 吉田 正

社団法人日本グライダークラブは、国土交通省所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された社団法人です。当クラブでは定款に掲げる理念に基づき、平成16年度は下記の通り、公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。平成17年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

### 1. 公益事業


#### 1) 滑空機研修会事業

 	<b>自家用受験準備コース(ベーシックコース)</b> 期 間 : 平成16年6月12・13・19・20・26・27日 (6日間) 平成16年9月4・11・20日(3日間) 参加人数 : インストラクター5名、練習生32名 概 要 : 受験準備の目的で、9日間の学科及び飛行に関して集中トレーニングを行った。
	<b>自家用実地試験受験コース</b> 期 間 : 平成16年11月15・22 (2日間) 参加人数 : 受験生4名 概 要 : 国土交通省航空局試験官による実地試験を板倉滑空場にて実施し、4名が合格した。



#### 2) 滑空機安全講習会の開催

	<b>技量維持航空安全講習会(航空局通達対応)</b> 期 間 : 平成16年2月28日 参加人数 : 30名 概 要 : 航空局通達に対応した自家用操縦士の技量維持にかかる安 全講習会を(社)日本グライダークラブ会員向けに実施した。
	<b>インストラクター認定コース(アドバンスドコース)</b> 期 間 : 平成16年8月-9月 参加人数 : インストラクター15名 概 要 : インストラクター年次教育の実施方法の研究、AFR(Annual Flight Review)飛行試験の実施方法の研究と、これらの飛行を実施した。
	<b>AFRコース(Annual Flight Review)</b> 期 間 : 平成16年通年 参加人数 : 板倉滑空場の定期的利用者全員 概 要 : 板倉滑空場にて飛行を行うパイロットに向けて AFR(Annual Flight Review)を滑空機及び動力滑空機ともに実施した。
	<b>エアロバティクス講習会・体験会(アドバンスドコース)</b>


	<p>期 間 : 平成16年10月2日 (1日間)          参加人数 : 受講者3名          概 要 : (社)日本滑空協会曲技飛行委員会の後援により、普段体験できない高度なエアロバティクスの体験会を実施した。</p>
	<p><b>異常姿勢からの回復操作講習会(アドバンスドコース)</b>          期 間 : 平成16年2月21日・22日 (2日間)          参加人数 : 受講者5名          概 要 : スピン、サブG等の異常姿勢からの回復操作にかかる実地講習会を主に指導者向けに実施した。</p>
	<p><b>グライダー・クロスカントリー講習会(アドバンスドコース)</b>          期 間 : 平成16年4月24日 (1日間)          参加人数 : 受講者1名          概 要 : 滑空機の野外飛行に必要な知識の整理およびフライトスキルの向上を目的とし、座学に加え、経験豊富なインストラクターの同乗による飛行実習を行った。</p>
 	<p><b>滑空機二等航空(運航)整備士受験コース(整備コース(第1回目))</b>          期 間 : 平成16年2月7日・8日・3月6日・7日(4日間)          参加人数 : インストラクター3名、受講者5名          概 要 : 二等航空(運航)整備士(上滑)受験に向けて学科、実技の講習を実施した。4名が二等航空整備士(上滑)、1名が二等航空運航整備士(上滑)を受験し、二等航空運航整備士に1名が合格した。</p> <p><b>滑空機二等航空運航整備士準備コース(整備コース(第2回目))</b>          期 間 : 平成16年6月12日・13日・19日・20日(6日間)          参加人数 : インストラクター3名、受講者10名          概 要 : 二等航空運航整備士(上滑)の基礎となる学科、実技の講習を実施した。</p> <p><b>滑空機二等航空運航整備士受験コース(整備コース(第3回目))</b>          期 間 : 平成16年11月6日・7日・13日・14日(4日間)          参加人数 : インストラクター3名、受講者8名          概 要 : 二等航空運航整備士(上滑)受験に向けて学科、実技の講習を実施した。4名が二等航空運航整備士(上滑)を受験し、4名全員が合格した。</p> <p><b>FRP 修理コース(ゲルコート仕上げ含む)</b>          期 間 : 平成16年7月4日・10日・11日(3日間)          参加人数 : インストラクター1名、受講者11名          概 要 : FRP 修理(ゲルコート仕上げ含む)の基本を学習し、修理技術の基礎を実習した。</p>
	<p><b>米国ミンデンにおける5000m獲得ウェーブ・フライトについての講演</b>          期 間 : 平成16年6月30日          開催場所 : 朝日新聞社東京本社 読者ホール          主 催 : (社)日本滑空協会、(財)日本学生航空連盟、(社)日本グライダークラブ          参加人数 : 受講者30名          概 要 : 古川英夫氏によるウェーブの原理、ウェーブ内での飛行方法、酸素システム、高々度飛行空域、医学的知識、飛行準備などの基本知識についての講習会を実施した。ウェーブによる野外飛行実践講習会を実施した。</p>


	<p><b>500km クロスカントリー飛行(日本新記録)の講演</b></p> <p>期 間 : 平成16年7月7日        開催場所 : 朝日新聞社東京本社 読者ホール        主 催 : (社)日本滑空協会、(財)日本学生航空連盟、        (社)日本グライダークラブ</p> <p>参加人数 : 受講者30名        概 要 : 平成16年4月20日、機長・市川博一氏、副機長・吉田正氏が板倉滑空場を離陸し 500km 往復速度 189.49km/H の速度記録を達成した時の飛行の概要</p>
---	---

### 3) 共催及び後援事業



	<p><b>エアロパティックジャパン IN かくだ(グライダー曲技競技会)</b></p> <p>期 間 : 平成16年10月9日、10日、11日 (3日間)        開催場所 : 角田滑空場(宮城県角田市阿武隈川河川敷)        主 催 : スカイネット角田        後 援 : (財)日本航空協会、(社)日本滑空協会、        (社)日本女性航空協会、(社)日本グライダークラブ 他</p> <p>出場者数 : 4名        概要 : グライダー曲技競技会の開催に後援を行った。        競技結果 : RED FOX チームが優勝した。</p>
	<p><b>ポーランド・スカイスports・フォーラム</b></p> <p>期 間 : 平成16年10月12日        開催場所 : 朝日新聞社東京本社 読者ホール        主 催 : (社)宮城県航空協会        共 催 : (財)日本学生航空連盟・(社)日本グライダークラブ        後援・協賛 : (社)日本滑空協会</p> <p>参加者数 : 40名        概 要 : ポーランド航空協会会長ヤン・カルピンスキー氏と副会長イェージー・マクラ氏により、日本とポーランドのスポーツ航空交流の歴史と現状についての発表を行った。</p>

### 4) 地域交流および認知度の向上


	<p><b>渡良瀬バルーンレース 2004</b></p> <p>期 間 : 平成16年4月10日        開催場所 : 渡良瀬遊水池運動場        開催者 : 渡良瀬バルーンレース組織委員会        公 認 : 日本気球連盟、熱気球グランプリ運営機構        後 援 : 国土交通省利根川上流工事事務所、(財)日本航空協会、栃木県、栃木県藤岡町、藤岡町教育委員会、埼玉県北川辺町、群馬県板倉町、藤岡町商工会、藤岡町観光協会、藤岡町体育協会、藤岡町女性団体連絡協議会、JA 藤岡中央、(財)渡良瀬遊水池アクリメーション振興財団、栃木県観光協会、下野新聞社</p> <p>動員人数 : 約 34,000 人(主催者発表)        概 要 : 地元に着陸しつつある町おこしイベントに、同じ航空スポーツとして参加。航空知識の普及とグライダーへの理解を目的に地上及び飛行機体展示(ディスカス bT・Ventus 2)を行い、来場者にグライダーを紹介した。</p>
---	--

	<p><b>渡良瀬遊水池 E ボートレース</b></p> <p>期 間：平成16年8月7日        開催場所：渡良瀬遊水池谷中湖        開催者：板倉町・藤岡町・北川辺町主催        概要：「E ボートレース」が開催され、JSC も「日本グライダークラブ」の登録名で2年ぶりに参戦し、地域住民と友好を図った。</p>
---	--

### 5) 他団体交流事業

 	<p><b>長野・板倉親善クラブ交流会</b></p> <p>期 間：平成16年10月2・3日        概要：長野市グライダー協会とより親睦を深めるために、交流会を板倉にて実施し、情報及び技術の交流を図った。</p> <p><b>日本各地のグライダー関係団体と活発な交流</b></p> <p>交流団体：(財)日本学生航空連盟、(社)宮城県航空協会        (社)長野県滑空協会(長野支部・諏訪支部)、        (学)日本航空学園、NPO 法人関宿滑空場、        NPO 法人羽生ソアリングクラブ、読売学生航空連盟、        (社)日本女性航空協会、日本モーターグライダークラブ、        滝川市スポーツ航空協会 他</p> <p>概要：日本各地の団体と交流を深め、運航業務支援、知識・技術の共有、人材交流、79 条申請の相互協定、講習会・イベントの相互案内を促進する体制を確立した。</p>
---	---

### 6) 他団体合宿・体験搭乗会受入

	<p><b>板倉滑空場で合宿・体験搭乗会を行った諸団体</b></p> <p>① 慶應義塾大学航空部 (平成16年2月13日～2月15日)        ② 早稲田大学航空部 (平成16年2月17日～2月21日)        ③ 名古屋大学・名城大学航空部 (平成16年2月25日～2月27日)        ④ 東京三田倶楽部 (平成16年10月24日)</p> <p>概要：上記団体について、運航支援および体験搭乗を行い、航空スポーツの発展と普及に努めた。</p>
---	---

### 7) 操縦教育




	<p><b>滑空機、動力滑空機練習生に対する操縦教育実施</b></p> <p>土、日、祝祭日を中心に熱心な練習生が集まり、滑空機及び動力滑空機のライセンスの取得を目指して操縦教育を行った。</p>
---	---

## 2. 講習会以外の安全事業

- 1) 北関東航空連絡会(陸上自衛隊・北宇都宮駐屯地)への参加・発表。
- 2) 西関東航空連絡会(航空自衛隊・入間基地)への参加。
- 3) 国際医学会での報告。  
(国際航空宇宙医学会(ICASM)にて「日本の滑空機事故におけるヒューマン・ファクターの動向」)
- 4) FAI 医事委員会への協力。(FAI-CIMP 委員の会員による協力)

## 3. 会員活動


- 1) 1年間で2187回の発航回数を誇る、日本でも有数規模のクラブ運営を実施。
- 2) 16名の新入会員を迎え、正会員113名、準会員52名の規模。(平成16年12月31日現在)

	<p><b>山岳波による日本記録達成</b>          平成16年4月20日、板倉滑空場を離陸した、ニンバス4DM(機長:市川博一氏、副機長:吉田正氏)が奥羽山脈の山岳波を利用し、500km往復速度189km/h超の日本記録を達成。</p>
	<p><b>フランス山岳飛行報告会</b>          平成16年9月25日、会員の森中祐治・玲子夫妻がフランス・アルプスにて世界記録保持者のクラウス・オールマン氏より山岳トレーニングを受けたときの様子を、写真と動画により報告会を行った。</p>
	<p><b>マウンテンウェーブ・プロジェクト</b>          国内外の山岳波飛行に関する研究プロジェクトチームを発足した。          平成16年12月—1月、会員の森中祐治・玲子夫妻が前述のクラウス・オールマン氏と共に、アンデス山脈(アルゼンチン)の山岳波飛行研究を実施する「チャレンジ・アンデス2004」プロジェクトを実施。</p>

		<p>平成16年6月、プラスチック訓練機としてTWIN 2を導入した。          また、平成16年10月、長年訓練機として活躍したL-13ブラニックが老朽化のため、退役した。</p>
	<p>ピストカーに太陽電池によるバッテリーチャージャーを装備した。これにより毎週練習前の充電作業が省力された。</p>	

#### 4. 広報活動

グライダーの普及と発展に寄与すべく、グライダーに関する広報活動を積極的に行い、認知度および理解度の向上に努めた。クラブ内においても情報の共有化を推進した。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>グライダーに関する様々な情報(安全情報を含む)と公益事業などクラブの主な活動内容を掲載したホームページ <a href="http://www.glider.jp">www.glider.jp</a> を制作・公開。</li> <li>会員専用のインターネットサイトを利用し、安全情報、事務手続きに関する資料などの共有化システムを構築。</li> <li>会員向けクラブニュース「JSC News」の定期発行(隔月)。</li> <li>クラブロゴマークを作成。</li> <li>各種マスメディアの様々な取材に協力。結果として、新聞、雑誌、TV、ラジオで多数紹介された。</li> </ul>
---	--

#### 5. 安全体制の確立

クラブ運航の安全体制を確認するために、下記項目の定着を促進した。

- 1) 航空局の「小型機の技量維持に関する通達」を受け、独自のAFR制度を導入・継続した他、チェックア

ウト規定およびビジター規定を整備し、広く一般への周知を目指してクラブホームページから参照可能とした。その結果、当該制度が浸透し、クラブ内外に技量維持訓練および安全情報の伝達などの定着を図った。また、当該通達に関する安全講習会の開催に向けて、社団法人日本航空機操縦士協会 社団法人日本滑空協会等の主管団体と講習会の共同開発を進めている。

- 2) 運航規定、フライトマニュアル、ピストマニュアルなどの規定類を整備し、メーリングリストの共有フォルダーにアップロードすることにより、常時参照可能とし、会員の情報の共有化を図った。
- 3) 飛行前の全員参加によるブリーフィングで、安全に必要な項目をピスト白板のチェックリストに記入し、常時確認を実施した。
- 4) 運航日に運航管理者1名、インストラクター1名の常時配置を徹底した。
- 5) インシデント対策その他運航の安全を確保するための施策を逐次実施した。

## 6. クラブ運営体制の改善

クラブ内部の運営体制を改善するために、下記の項目を実施した。

- 1) インストラクター、曳航パイロットに対して研修会を実施し、安全情報を確認する機会を持った。
- 2) 会員のボランティア活動に対するリスクを多少なりとも軽減し、活動を促進するために、クラブとして傷害・賠償責任保険を付保した。これはクラブ活動中の不測の事故や損害に備えて、会員に対してお見舞金や損害賠償に対する補償をクラブより補填する制度あり、制度を周知させるためにマニュアルを作成の上、会員全員に配布した。
- 3) 滑空場内で使用する車両(ピストカー、バギー、リトリブカー、草刈機等)について自賠責保険を付保した。
- 4) 公式文書の改廃リストをアップデートし、東京事務所にて現在有効な公式文書番号を管理できるように改善した。また、メーリングリストの共有フォルダーに公式文書リストをアップロードすることにより、常時会員より参照可能とした。
- 5) 55周年記念事業である滑空場施設改善のため、資金の集めり具合に対応し計画を分割し、第1次計画に着手した。計画の内トイレ・浴室・シャワールーム、宿舎、事務所、宿舎の部分の建設に着手した。完成はH16年2月末になる見込み。第2次工事は55周年に当たる2006年までに行う予定である。



平成 15 年度に全ページがオープンしたクラブホームページ  
[www.glider.jp](http://www.glider.jp)



(社)日本グライダークラブの活動拠点

★板倉滑空場インフォメーション★

座標:N 36°15.875 E 139°37.987

使用周波数:板倉フライトサービス  
130.675 MHz

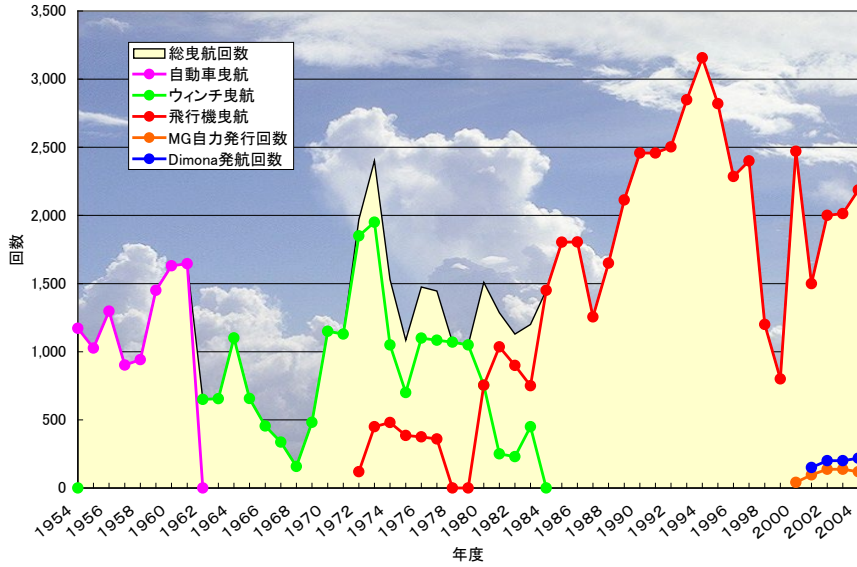
滑走路方向: 15 / 33

滑走路面: 草地

全長: 約 1000 m (3280 ft)、

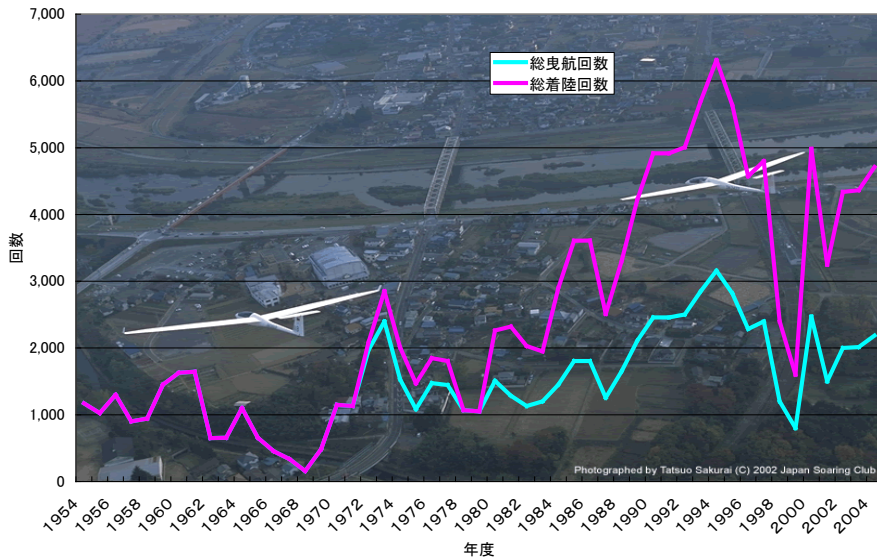
全幅: (平均) 60 m (200 ft)

(社)日本グライダークラブ 曳航回数推移(1954-2004年)

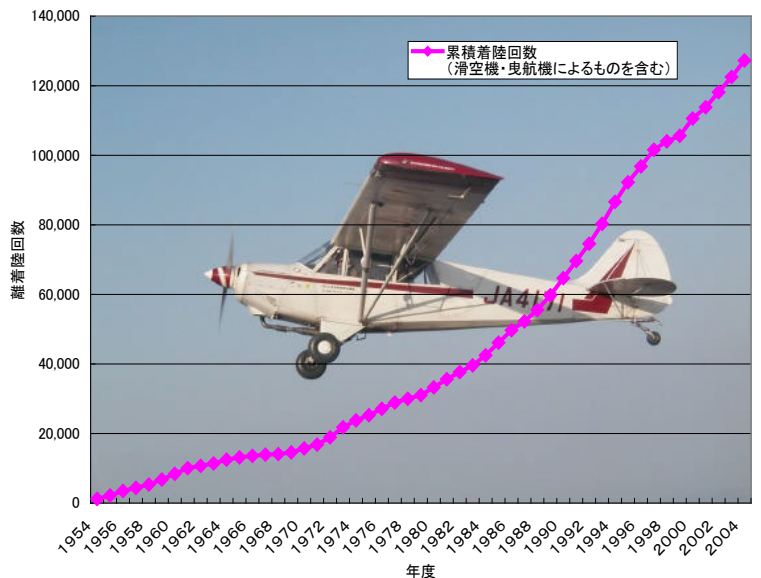


(社)日本グライダークラブ  
統計資料館

(社)日本グライダークラブ 総曳航回数・総離着陸回数対比(1954-2004年)



板倉滑空場 累積着陸回数(1954-2004年)



社団法人日本グライダークラブ

■板倉滑空場

住所：〒374-0101 群馬県邑楽郡板倉町除川 1286  
TEL：0276-77-1249 FAX：0276-77-0830

■東京事務所

住所：〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-1(航空会館 9F)  
TEL：03-3591-7728 FAX：03-3591-7726

E-mail: [jsc@desk.email.ne.jp](mailto:jsc@desk.email.ne.jp)  
URL: [www.glider.jp](http://www.glider.jp)